

平成24年秋季海外駐車場研修会（10月11日～16日）

# 参加レポート



韓国（ソウル）編  
10月11日～13日

東英興産株式会社  
代表取締役社長 大家 正光



一般社団法人全日本駐車協会の主催する平成24年度秋季駐車場研修会は、10月11日から16日の日程で韓国（ソウル）、中国（大連）の2か国2都市を訪問、伴襄団長をはじめ全国より総勢27名の方々の参加をいただいて開催されました。

韓国及び中国と我が国の間の諸問題の影響が懸念される時期ではありましたが、期間中トラブルなど一切なく、予定された全行程と研修内容をすべて実施して無事全員元気に帰国することができました。

私は前半の韓国（ソウル）の研修内容をレポートさせていただきます。

## □ 10月11日（木）.....

天候に恵まれた出発当日、東京・羽田空港で結団式の後、午前11時30分ソウルに向けて飛び立ちました。フライト時間は約2時間25分、機内で快適に過ごすうちに早くもソウルに近づき、着陸態勢のアナウンスが流れる頃、窓から眼下を眺めると丘陵地帯と多くの高層マンション群が目に入りました。私にとってソウル訪問は初めてではありませんでしたが、あらためて豊かな緑と高層ビルが調和する大都市との印象を受けました。

金浦（キンポ）空港に到着後、福岡空港から来られた参加者と合流し全員が揃って早速研修開始となりました。空港から屋外へ出ると予想より暖かく、すがすがしい秋晴れでした。

### LOTTE MALL 金浦空港 駐車施設

金浦空港に隣接し、2011年12月9日にオープンした「LOTTE MALL 金浦空港」は、デパート、マート、ショッピングモール、ホテル、シネマ、文化ホールなど様々な施設が連結されている韓国初かつ最大規模のモールパークです。その地下駐車施設（3,800台収容可能）が最初の視察先となりました。

駐車料金及びシステム概要は以下の通りです。



LOTTE MALL 金浦空港

駐車料金：無料/30分・追加1,000ウォン/30分（1,000ウォン=約70円）

料金割引：10,000ウォン以上買物	1時間	30,000ウォン以上買物	2時間
50,000ウォン以上買物	3時間	100,000ウォン以上買物	6時間
300,000ウォン以上買物	12時間		
映画鑑賞客	3時間	ホテル宿泊客	宿泊期間中無料

## システム概要

- ①入口に駐車券発券機が設置されており車番認識システムと連動しています。車番認識OKの場合「チケットレス」で入場。認識した車番は電光表示板に表示。認識NGの場合は駐車券を発行します。
- ②超音波誘導システムを採用、駐車場内に設置された在車センサー(車室毎：3,800台)、まねき灯(ブロック毎：976台)、LED誘導電光板(ゾーン毎：131台)と約300台のカメラを使って各車室やエリアの空き状況を表示、入場車両を誘導します。駐車後サーバーからカメラに指示して駐車した車両の車番を認識します。
- ③各施設での利用金額と連動して駐車料金の割引が受けられます。買物の際受け取ったレシートにバーコードによる買物情報が印刷されており、事前精算機(8台)ではバーコードを読み取って割引をします。ホテル・シネマ利用客にはフロント・券売所に設置の割引認証端末にて車番情報を入力し割引情報を上位システムに登録します。
- ④場内に設置されたKIOSK端末(11台)では施設案内のほか、駐車位置を忘れてしまったお客様向けに、車番を入力して検索することで駐車位置までのルート案内を行います。
- ⑤駐車料金の精算は、チケットレスのため事前精算機で車番を入力することにより行います。現金、クレジットカード決済が可能です。
- ⑥出口の手前には「通過チェックレーン」が設置しており、車番認識によって、レーンを通過する車両が事前精算済みか未精算かを判別し、それぞれ各レーンに振り分けて誘導し出口の渋滞を回避します。未精算車両に対しては出口に設置の自動読取計算機(レジ)により車番認識された情報から入庫時刻・割引情報の有無を上位システムに照会して駐車料金の計算を行います。



車両外観撮影カメラ



KIOSK端末(駐車位置検索画面)



駐車場ナンバー読取機



管理室

以上がシステム概要ですが、これら全ての膨大なデータは一年間保存されるということです。さらに、駐車場の入口と出口のそれぞれ3か所に備えられたカメラがお客様の車のボディを入庫時と出庫時に撮影して場内での事故等に備えています。

また一方、女性ドライバーのために幅を大きく広げた専用駐車スペースを設け、駐車場入口では透明のボックスの中で女性スタッフが笑顔で出迎えてくれたりなど、ホスピタリティーの面でも至れり尽くせりで、はたしてコストパフォーマンスや採算はどうなのだろうか?と考えるほど、設備・システム・サービスすべてに投資を惜しまない駐車施設でした。

視察終了後、空港からバスでソウル市内に向かいました。中心部に入り、ガイドさんの説明で車窓から大統領官邸青瓦台の鮮やかなブルーの瓦屋根や世宗路の李舜臣將軍像などを見ているうちに、程なくしてバスは次の視察先のある南山に到着しました。



女性専用スペース



入口女性スタッフ

### Nソウルタワー

市内中心部にある「南山」にそびえ立つNソウルタワーはソウルのランドマーク的存在で、2005年に全面改装し、名前も「南山タワー」から「Nソウルタワー」に変わったとのこと。南山の頂上近くでバスを降り、きれいに整備された広い上り坂を歩いてタワー入口に至ります。入口近くの道路際に大型バス用の急速充電器が設置されているのが目につきました。南山は標高243m、市の中心部にある山であるため、すぐ眼下には高層ビルが広がりタワーに上る前から素晴らしい景色を楽しみました。余談ですが、私自身東京の人間で関東平野に慣れているためか、大都市の真ん中に山があって街並みを見下ろすというのはちょっと不思議な感覚でした。

タワーに入りエレベーターで展望台に着くと、眼前に快晴の空と絶景が広がりソウル全域360度の見晴らしを堪能することができました。

タワー見学が終わると本日の視察研修は終了、バスに乗って南山を下り、まもなく宿泊先である「ザウエスティンチヨースンホテル」に



Nソウルタワー北側眺望



Nソウルタワー外観



Nソウルタワーにてバス充電中



チェックイン。暫し休憩の後、夕食会場である「三元ガーデン」に向かいました。伴団長にご挨拶いただいて、ビールで乾杯。ボリュームたっぷりの肉と、キムチ、ナムルの揃った韓国料理の定番といえる焼肉料理を味わいました。マッコリなどお酒も入って皆さんすっかり打ち解け、楽しく第1日目の夕食会を終えました。



伴団長のご挨拶

□ 10月12日 (金) .....

9時にホテルをバスで出発してまずソウル駅へ向かいました。途中ソウル市庁舎や韓国銀行等1920年代に建てられた重厚な建築物が目を引きましたが、これらは記念館として使用されているとのことです。南大門を通過するとすぐにソウル駅に到着しました。

ソウル駅 (新駅)

最初に、2004年の韓国高速鉄道(K T X)の開業にともなう大改修工事で竣工した新駅を視察しました。韓国の国鉄にあたる韓国鉄道公社の本部が構内にあるそうです。ソウルの表玄関と呼ぶにふさわしい大規模なガラス張りの建物に入って、K T Xの乗り場に向かいました。自動化を推進したことによりK T X乗り場入口には改札がなく簡単にホームに入ることができます。1992年に着工し、12年の歳月をかけて2004年に開業、現在ではソウルー釜山間の京釜線が完全開通して、423.8kmを所用時間2時間18分で結び最高時速は300キロ超ということです。参加者の皆さんは車両の写真を撮影したり思い思いに見学されていました。

Train Name	Dep. Time	Tracks	Terminal	Current Time	Trains	Output
Mugunghwa	06:23	4	Busan	14:37	1209	0
K T X	08:30	9	Busan	11:53	1211	0
Mugunghwa	09:35	5	Sucheon	17:51	1211	0
Saemoui	08:40	4	Pohang	15:07	1201	0
K T X	09:45	8	Busan	11:58	001	0
K T X	09:50	9	Busan	12:20	201	0

ソウル駅の列車案内表示



ソウル駅停車中のK T X

財閥系企業商業施設

今回の研修では韓国の財閥系企業視察を目的のひとつとしています。急速に発展してきた韓国経済の中で、財閥は大きな地位を占めており、2011年には上位10グループの売上高でGDPの76%を占めたなどの報道もありました。サムスン、現代、LG、SK、ロッテ等をはじめとしたこれら財閥は厳しい競争の中で近年も事業規模や総資産額を拡大し、それにも増して傘下の系列企業数が大きく増加しているそうです。



ソウル駅外観

財閥のひとつに「ハンファグループ(Hanwha Group)」があります。1952年に火薬メーカー・韓国火薬(株)を設立したことに始まり、多角的な事業展開によって、製造・建設、金融、サービス・レジャーの3大事業部門を中心に国内53社、海外78拠点をもつ企業グループに成長し、財閥上位10グループに名を連ねるまでになったということです。

そのハンファグループが経営する商業施設のひとつに、ソウル駅に隣接する好立地に新駅誕生とともにリニューアルした「concos THE GALLERIA」があります。比較的若い層をターゲットにしたファッション中心の百貨店ということで、820台収容の駐車場を擁しています。

私たちは、コンコースを隔てて向かい側に立地する、大型スーパー「LOTTE MART ソウル駅店」を視察してきました。2～3階が売り場、4～6階が駐車場となっ



ロッテマートの2階売り場

ています。店内には日本語の表示があり、フードコートも充実しています。食料品、日用品、家電製品、衣料品など韓国製品主体に品揃えはたいへん豊富で、地域に密着したディスカウントショップのため土産物を買うにも最適で大抵の物が安く手に入ります。

「何かお手伝いしましょうか?」と日本語とハンゲルで書かれたタスキを掛けた年配の男性スタッフがいたので会話したところ、日本語が非常に堪能で、「日本の歴代天皇125代すべて言えるんです。神武、綏靖、安寧……」と暗唱してくださったのが印象的でした。



ロッテマートの駐車場



ロッテマートでの松茸特売



ロッテマートの男性スタッフ

### 旧ソウル駅 (文化駅ソウル284)

「LOTTE MART」に隣接し大通りに面した旧ソウル駅舎を次に見学しました。ドーム型の屋根と赤煉瓦の外装の堂々とした趣のある建築物で、沿革としては1900年7月に京仁鉄道の開通により南大門停車場として木造の建物で業務を開始、1915年に京城駅と改称され、1925年南満州鉄道株式会社がガルネサンス風建築として改築竣工したものが現在史跡として保存されている旧駅舎で、2004年新駅完成とともにその役割を終え、原形復元工事を経て2012年4月に複合文化空間としてオープンしました。中に入るとドーム型の中央ホールから、1・2等待合室、3等待合



室、女性専用待合室、貴賓室、駅長室などがそれぞれ展示室として復元され、往時を偲ばせます。文化駅ソウル284とは旧ソウル駅の史跡番号(284)を文化空間というコンセプトと結合して名付けたということです。



旧ソウル駅舎外観



旧ソウル駅貴賓室

午前中の視察を終了し、一行は「DONGWHA免税店」でショッピングの後、昼食はレストラン「宮の朝」にて石焼ビビンバを楽しみました。

昼食後、バスで景福宮に出発。昨日からソウルの都心部ばかりを移動しているためかもしれませんが、車窓から街を眺めていると道路は清掃が行き届き、交通量は多いけれども自転車をほとんど見かけないこともあって街並み全体が整然としています。

### 景福宮 (キョンボックン)

ソウル五大宮のひとつ「景福宮」は、朝鮮王朝(1392年～1910年)の正宮で、王朝の創始者である太祖・李成桂が高麗の首都を移転した際、新しい宮殿として1395年に建てたもので、約15万坪といわれる広大な敷地に南北に長い長方形に造られています。

私たち一行が入って行くと、ちょうど光化門(南側にある正門)と興礼門の前の広場で朝鮮時代の守門軍の交代儀式を再現した「王宮守門将交代儀式」が始まるところで、色鮮やかな伝統衣装を着た大勢の守門将による衛兵交代の様子を見ることができました。



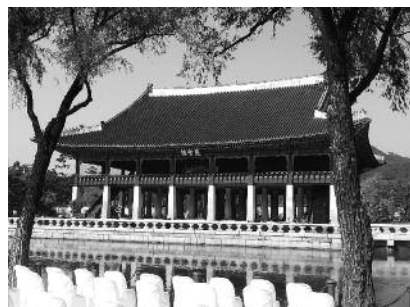
景福宮での衛兵(守門将)交代式

この後、王の即位式など国家行事の場であったという国宝「勤政殿」、王の執務室であった「思政殿」、王や王妃の日常生活の場であった「康寧殿」「交泰殿」、外国使臣の応対や大規模な宴会に使われた国宝「慶会楼」など、ガイドさんの案内で見学して廻りましたが、とにかく広く、王朝の歴史の重みを体感できる壮大さに圧倒されます。

その広大な景福宮ですが、平日の午後にもかかわらず非常に多くの観光客や見学者で賑わっており、



景福宮の勤政門



景福宮の慶会楼



特に3歳～5歳くらいの幼児の団体を先生が引率している光景がいたるところで見られ、いかに幼少時からの歴史教育を重視しているかが窺われます。また、景福宮と次に訪れた昌徳宮について現地にあるガイドブックには、文禄の役(豊臣秀吉の朝鮮出兵)による被害の記述に始まり、“日本の植民地時代に計画的に毀損された”“日本は朝鮮総督府の建物が完成すると景福宮の顔といえる光化門を無くそうとした”“庚戌國恥(朝鮮が日本の植民地支配下に置かれたこと)が決まった悲劇の現場”等々日本を非難する記述がたいへん多く、韓国の日本に対する被害者意識の根深さを改めて認識させられます。

### 昌徳宮 (チャンドクン)

「昌徳宮」は正宮である景福宮の東側に位置し、第3代太宗が1405年に別宮として建てたもので、以後王たちが主に昌徳宮に居住して実質的な法宮(王が住む宮廷)の役割を担ったそうです。文禄・慶長の役の時代に焼失後、1610年に再建され、やはり焼失した景福宮が再建されるまで270年余り法宮として使用されました。1997年にユネスコ世界文化遺産に登録されています。

一行は正門である敦化門から入り、正殿として重要な国家儀式が執り行われた「仁政殿」、公式執務室であった「宣政殿」、寝殿と執務室を兼ねて王が最も多くの時間を過ごしたという「熙政堂」など主要な建造物を内部も併せて見て廻りました。

最後に見学した「楽善齋」に少し触れておこうと思います。19世紀半ばに第24代憲宗が慶嬪(側室)のために建てた住居がこの楽善齋の一帯で、これまで見てきた宮殿とは異なり、簡素な建物がひっそりと佇んでいます。宮廷内に側室のために建物を建てるのは非常に異例なことだそうです。楽善齋はその後、朝鮮王朝最後の皇太子で日韓併合後は朝鮮王族となった李垠殿下に日本の皇族梨本宮家から嫁いで妃となった李方子さんが、戦後韓国に帰化し障害児教育など福祉活動に献身され1989年に87歳で亡くなるまで晩年を過ごした居宅となりました。1989年といえついで23年前、日本でいえばバブルの絶頂期に、20世紀の激動の時代を生き日本と韓国の歴史に翻弄されながら日韓両国の架け橋にならんとされた高貴な女性がこの地で生涯を閉じたことを思うと深い感慨を覚える次第です。

昌徳宮の見学を終えた後、この日最後の視察先である国会議事堂がある汝矣島(ヨイド)に向かいました。汝矣島は、大統領官邸青瓦台や景福宮から10kmほど南西に位



昌徳宮の仁政殿



昌徳宮の仁政殿玉座



昌徳宮の楽善齋

置し、ソウル市の中央を流れる河川・漢江(ハンガン)にある中洲で、1975年に国会議事堂が移転竣工して以来、韓国証券取引所が移転、財閥LGグループの本社ビルであるLGツインタワー、先にご紹介したハンファグループが所有する韓国随一の超高層ビル「63ビル」や報道機関、証券会社、ホテルなどが立ち並ぶビジネスエリアとなっています。

漢江は川幅1kmほどあるでしょうか。ソウル市民の憩いの場としてだけでなく、現在も、また歴史的にも韓国の水資源や運河として重要な役割を果たしてきただけあって、広くゆったりと流れる大河という印象を受けます。

## 国会議事堂

汝矣島の面積の12.5%にあたる約10万坪の敷地に議事堂、議員会館、国会図書館、憲政記念館などの諸施設が点在しています。一行は議事堂前でバスを降りました。石造りの巨大な建造物で議事堂単体としては東洋一の規模だそうです。



国会議事堂外観



国会議事堂竣工記

屋上にグリーンの半円形のドームがあるということですが建物が大きすぎてカメラに全体像が入りきれず、ドームも見ることができませんでした。さて内部に入ると、大理石の壁に大きく漢字とハングルで書かれた国会議長名による「大韓民國國會議事堂竣工記」が掲げられているのが目につきます。



国会議事堂本会議場

エレベーターで階上に上がると、国会記者クラブらしき報道関係者の詰めたガラス張りの部屋の前方に本会議場があり、私たち一行は2階の傍聴席から見学しました。本会議場真正面の壁(中央の議長席の後方)には韓国国会の大きな紋章が掲げられています。他に数十名の見学者がいて係員の方による韓国語の解説を聞いているところでした。

韓国の国会議事堂は、第2次大戦後の1948年に南北に分断されたまま大韓民国だけで初の国会が開かれたときはソウルの旧朝鮮総督府庁舎を使用し、1950年の朝鮮戦争勃発で首都が釜山に遷都されて大邱～釜山に移り、1953年の休戦で首都がソウルに



国会議事堂前の急速充電器設置駐車場



国会議事堂前の急速充電器



再遷都された翌1954年にソウルに戻るなど変遷を繰り返し、現在の議事堂は1975年8月に竣工しました。

国会は一院制で解散はなく任期は4年、定数は地方区246議席、比例代表54議席の合計300議席で、選挙制度は日本と同様小選挙区比例代表並立制をとっているということです。議事堂から屋外に出てみると、急速充電器が設置してある幅の広い駐車スペースが3台分設けてありました。こちらを暫く見た後、国会の敷地の中にある憲政記念館を訪れました。

### 憲政記念館（国会訪問者センター）

1998年に国会開院50周年を記念して建てられたもので、資料館あるいは記録保存展示館ともいふべき施設でした。入口前庭には「民意の殿堂」と書かれた石碑が建っています。館内に入ると、国会の歴史を説明する各種のパネルが並び、歴代の国会議長の肖像画、国会の仕組みや機能の説明、ビデオによるドキュメンタリー映像、過去の国会の重要事項の展示や、歴代大統領それぞれの時代ごとの展示などがあります。大統領執務机を再現したコーナーや模擬議場体験ができるコーナーなど豊富な展示内容となっていました。



国会憲政記念館内の展示パネル

以上で視察研修を終了し、ホテルに戻ってから夕食会場に出発。この日は「韓一会館」にて韓国ならではの蔘鶏湯(サムゲタン)をいただきました。前日に引き続きボリューム満点の蔘鶏湯やお酒に大いに満足、和やかな夕食会となりました。

### □ 10月13日（土）.....

ソウルでの最終日となった第3日目は、朝ホテルをチェックアウトして、バスで江南(カンナム)地区に向かいました。ガイドさんによると、韓国の人口約5,000万人のうち20%にあたる1,000万人がソウル特別市に住んでいるそうです。Nソウルタワーから眺めてよく分かりましたが、青瓦台の北(後背)は北岳という山になっており、したがって漢江の北側(明洞、景福宮、東大門など名所のある古くからの市街地)は比較的狭く、ソウルは漢江の南側(江南)を開発して市街地を拡げていきました。

1960年代までは郊外の農村だった江南地区は1970年代以降、政府主導で急速に新都市として開発が進んで、高層マンションやオフィスビル・デパートなどが集積、高学歴者や富裕層が移り住み、現在では外資系ホテルやブランド店も立ち並ぶビジネス・商業の新たな中心エリアに発展したということです。私たち一行は江南のビジネス中心街である三成洞(サムソンドン)にある「COEX MALL」を視察しました。

### COEX MALL

「COEX」とは、「Convention」と「Exhibition」の合成語だそうです。COEXはもともと1979年に総合展示場として開館し、2010年にG20首脳会合の開催会場となるなど韓国を代表す



る大型のコンベンションセンターで、COEX MALLの他インターコンチネンタルホテル、現代百貨店、貿易センタービル、都心空港ターミナルなどとも連絡する巨大な商業文化複合施設です。COEX MALLは韓国最大規模の地下ショッピングモールで、総施設面積は119,000㎡(オリンピック主競技場の約14.5倍に相当する規模)、テナント店舗数が260店あるということです。モール内に入っ



COEXタワー



COEX MALL 施設案内表示

て広い通路を歩きましたが、韓国では一般的に店舗の開店時間が日本と比べて遅いようで、残念ながら多くの店舗は営業していませんでした。施設案内を見ても非常に広く、とても一日では廻りきれない規模に感じました。

さて韓国で過ごす時間もそろそろ終わりに近づき、COEX MALLを後にした一行は、江南地区の街並みや汝矣島に建つハンファグループの「63ビル」を見ながら漢江の南岸を西方向へ、仁川(インチョン)国際空港に向か



COEXMALLエントランス

いました。仁川市はソウル近郊、韓国で3番目の人口規模がある黄海に面した港湾都市で、仁川空港は沖合に浮かぶ永宗島と龍遊島の中間の干潟を埋め立てて造成され2001年にオープン、今やアジア最大級のハブ空港といわれています。バスは延々と続く干潟を走り空港に到着。一行は韓国に別れを告げて13時発の大韓航空便で次の訪問先、中国・大連へ出発しました。

### レポートを終えるにあたって

韓国及び中国は、長い歴史の中で地理的、文化的、政治的、経済的に日本と極めて深い関わりを持ち、またこれからも関わり続ける隣国であることは申すまでもありません。今回日本との間の国際政治上の諸問題の影響が懸念されたこの時期に敢えて両国を訪問し、相互に交流して理解を深めることの重要性を痛感しました。また駐車場ビジネスのみならず、最先端の商業施設や開発地区、国政の中核、歴史的建造物、さらに大連においては現地経営者との意見交換から、日本の足跡が色濃く残る近現代史の現場まで、多様で内容の濃い視察研修はたいへん有意義な体験でした。全国から参加された皆様と親睦を深め、全員無事研修を終えられましたこと深く感謝申し上げます。全体を統括された伴団長及び加藤企画委員長はじめ企画委員の方々、中丸常務理事、全参加者の皆様、事務局の皆様、3回目の添乗でこのツアーに欠かせない存在になった近畿日本ツーリストの佐伯さん、現地ガイドさん他関係各位に厚く御礼申し上げます、今後も充実した研修会が実施されますことを願って、私のレポートを終了させていただきます。有難うございました。

以上